

会 議 録

八王子市立第六中学校

会 議 名	第 5 回 「青雲の学舎」づくり推進協議会
日 時	平成19年10月13日 (土) 9時00分 ~ 11時10分
場 所	第六中学校図書室
出席者	委 員 協議会委員 町田委員、岩木委員、石母田委員、黒沢委員、澁澤委員、 伊藤委員、遠藤委員、齊藤委員
	教育委員会 学校教育部 朴木統括指導主事
	承認者 協議会委員 8名
	説明者 第六中学校(齊藤校長、橋本副校長)
	事務局 第六中学校職員 (橋本副校長、池田主幹、岩崎主幹)
欠 席 者	協議会委員 小島委員
議 題	1 「学力の向上」の課題解決にかかわる三カ年計画の策定について (検討事項) 2 平成19年度学校評価内容・方法について(報告事項) 3 教育課程全般にわたる実施状況の課題について(検討事項) 4 その他
公開・非公開の別	公開・一部非公開・非公開
非公開理由	
傍聴人の数	なし
配付資料名	・地域運営学校「青雲の学舎」学力向上重点施策三カ年計画(資料1) 「青雲の学舎」学力向上重点施策三カ年計画の策定にあたって(資料1 1) ・平成19年度教育活動アンケート(資料2) ・「学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究事業」の事業計画書 (資料3)
会議の内容	1 「学力の向上」の課題解決にかかわる三カ年計画の策定について (検討事項) 「学力の向上」の課題解決にかかわる三カ年計画およびその策定にあたっての基本的な考えについて、齊藤校長より説明がありました。資料については、当協議会で学力そのものにどう正対していくかの一助となりうればと考え作成されたものであるとの齊藤校長の前段の説明の後、様々な意見が交わされました。各委員の意見を参考に計画詳細を策定し、後日提示することになりました。 ・到達目標は各年度ごとに設定した方がよいのではないかと。 ・到達目標として数値をかけることはよい。様々な方策の成果がわかり、また今後策定しなければならない具体的方策の指針となる。 ・検定や学力調査等の数値だけでなく、積極性や学ぶ意欲などの「質」の面も到達目標に設定するべきである。意識調査等で評価してはどうか。例えば、家庭での学習時間、ボランティアに参加したか、読書量がどの位増えたかなど、自己評価をデータ化し、その結果を提示することで家庭への啓発活動を行うこともよいのではないかと。 ・「六中カレッジ」がコミュニケーション力や国語力の補完を目的としているのであれば、教科指導とリンクさせて行う方がよいのではないかと。 ・教師の指導力の向上の取り組みについて、その検証も今後必要である。 ・三カ年計画であれば、5年先まで見据えて作成し提示すべきである。企業では、財務、顧客、業務プロセス、将来の成長、という4つの観点から計画を作成する。「財務」の部分を学校では「学力」に置き換え、4観点から計画を作成するのが望ましい。

<p>会議の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三カ年計画を作成するのであれば、まず生徒自身にキャリアプランを作成させてはどうか。例えば、小学校6年から高校1年までの5年間の計画を作成させそれらを基にするなど、生徒の視点をもう少し前に出した三カ年計画を作成してはどうか。 ・各種検定だけではなく、前回提案された小中一貫の検定試験などを利用した数値目標を設定するのもよいのではないか。 ・各種検定が中学校の学習内容の理解度について正確な判断材料とならないにしても、学習意欲の向上という点では有効であるだろう。そういう意味では、検定についての数値目標は意味がある。 <p>教育委員会あいさつ</p> <p>2 平成19年度学校評価内容・方法について（報告事項）</p> <p>(1)平成19年度教育活動アンケートの修正 前回協議会で提示され検討したアンケート用紙について、修正された用紙が橋本副校長より再度提示されました。</p> <p>(2)「学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究事業」の事業計画 「学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究事業」の事業計画書が齊藤校長より提示されました。また、10月23日（火）13時から、監査法人「トーマツ」の代表2名ら関係者が学校視察に訪れとの報告がありました。また、10月29日（月）13時から、本校の地域運営学校の状況について、宮城県議会（議員10名）の視察があるため、黒沢委員の出席もお願いしたとの報告がありました。</p> <p>3 教育課程全般にわたる実施状況の課題について（検討事項）</p> <p>(1)学力の向上を支える支援の方策 六中カレッジの内容 実施目途とその規模（実施時期、講座概要） 前回協議会で黒沢委員より提案された「六中カレッジ」の内容等について討議されました。「学力」についての考え方やとらえ方を中心に、次回以降さらに議論を深める必要があるとの全委員の認識で、当議題についての討議は終了となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「六中カレッジ」は、「学力」を座標の縦軸として考えた際、その横軸となる「コミュニケーション力」の部分の補完するものである。教科学習、授業とは離れた講座を開設する。 ・「学力」には、様々な考え方やとらえ方がある。文部科学省の言う「学力」には、その「コミュニケーション力」もすでに含まれているのではないか。 <p>4 その他</p> <p>(1)次年度の学校運営協議会予算要望について 次年度の予算要望について、齊藤校長より説明がありました。各委員からは、人的措置に関わる費用等の拠出のほか、数項目について要望したいとの意見が出されました。</p> <p>(2)次回 第6回協議会 11月10日（土）9時より開会</p> <p>(3)道徳授業地区公開講座協議会の出席依頼 10月20日（土）に行われる公開講座協議会について、各委員に対して橋本副校長より出席の依頼がありました。</p>
<p>会議録確認印</p>	<p>平成19年10月17日（水） 確認者氏名 町田貞修 印</p>

